

1. 政治・外交・国際関係

王 芸生 著 / 監修 末廣重雄
編訳 長野 勲、波多野乾一 / 解題 大畑篤四郎

復刻版

日 中 外 交 六 十 年 史 全 4 卷

ISBN 978-4-8447-0250-4

A5判・総1,420頁(検閲伏字を回復) 本体価50,000円

今日、日中関係史についての関心は極めて高いのであるが、全体を展望した概説書は意外に少ない。本書は、戦前中国で「六十年来中国與日本」として公刊され、長野勲・波多野乾一両氏によって昭和8~11年にかけて刊行された「日中外交六十年史」に、解題を附して復刻したものである。

古代日中関係から説きおこし、特に日清修好條規の締結からバリ講和会議に至る日中外交史を編述。日中関係史を専門とする研究者にとって、必読の書といえる。

(87・7 初版)
(88・8 2版)

残僅少

海軍省 編

復刻版

海 軍 省 日 誌 原本6,400頁人名・事項索引付 全 4 卷

ISBN 978-4-8447-3305-8

B5判・各冊平均400頁(1頁に原本二丁組入れ)
本体価72,000円

1872(明治5)年、兵部省から独立して設置された海軍省は、はじめ海軍の軍令・軍政のすべてを統括することを主な用務としたが、のち1886年、省の管掌は軍政事項に限定されるようになる。この間、明治9年より15年まで『海軍省日誌』(総6400頁余)は印行された。それは西南戦争(1877)、竹橋事件(1878)など、更に明治15年の軍人勅諭発布、福島事件に至るまでの当時の政治・社会状況を日を追って克明にたどる、正に第1級資料と見なすに充分である。

(89・4刊)

龍溪書舎編集部 編

『海 軍 省 日 誌』 索引

ISBN 978-4-8447-3306-5

A5判・44頁 本体価1,000円

復刻版『海軍省日誌』全4巻(明治9年~15年)から人名・事項別の索引を記載。(89・11刊)

島田三郎全集編集委員会(代表 内山秀夫) 編

編集復刻増補版

島 田 三 郎 全 集 全 7 卷

ISBN 978-4-8447-3316-4

A5判・総約3,700頁・各冊約550頁 本体価120,000円

本全集は、大正13年から14年に、吉野作造、山室軍平、木下尚江が編集した全5巻に、新たに「社会主義及び日本改造」ならびに「演説、序文、回顧・伝記」等の新編集を加え、より完全を期したものである。

嘉永5年に幕臣の家に生まれ、多難な自己啓蒙の道を辿り、わが国立憲政治の確立に心魂を注ぎ、党利派略を拒否する清新の生涯を送った政治家島田三郎は、「横浜毎日新聞」社長として、常に建設的批判精神を一貫した。また、星亨の弾劾、足尾鉍毒糾弾、廃娼運動・労働運動推進、シーメンス事件訴追等、彼の正義への意志はわが国の近代史を飾る足跡を遺しており、正に「明治における良心」(89・5刊)

陸軍省 編／解題 久 源太郎

復刻版

陸軍省年報

原本6,000頁(明治8年7月～19年12月) 全4巻

ISBN 978-4-8447-3324-9

B5判・総約1,500頁(1頁に原本二丁組入れ)

本体価72,000円

本史料は、わが国近代の兵制史・政治史・外交史の基本的データを伝える随一の資料である。この時期、陸軍省は発足間もなくして、しかも、朝鮮、中国への政治干渉、西南戦争、自由民権運動の台頭など内外に抱える問題は山積みし、明治政府は、経済・税財政の確立とともに、軍制度の制定を政治の主眼とした。上記を踏まえた、所謂太政官制の時代の、内外の重要な出来事が、極めて客観的に記録され、その裏付けとなる膨大なる統計データ(挿絵など)が整然と記載されている。

(90・10 刊)

中村尚美 著

明治国家の形成とアジア

ISBN 978-4-8447-8334-3

A5判・370頁

本体価5,500円

19世紀の半ば、近代化の歩みを始めたわが国は、欧米列強のつくり出した国際秩序の一員になることをめざして、西洋文明を意識的に吸収しつつ、近代国家を形成してきた。本書はその過程を、第1部「明治国家の形成」において制度的ないし機構的側面において明らかにし、その近代的国家形成過程における代表的な日本のアジア認識の思想と実態を、第2部「アジアへの視覚」で解明する。

(91・3 刊)

藤本一美 著

増補 海部政権と政治改革

ISBN 978-4-8447-8371-8

A5判・306頁

本体価3,000円

リクルート事件に始まる政治スキャンダル——国民の政治不信——に対し、それを払拭すべく登場した海部政権が至上課題とした「政治改革」につき、その問題点を明らかにする。

(92・3 初版
94・3 2版)

監輯 松田道一／解題 大畑篤四郎

復刻版

国際平和関係條約集

ISBN 978-4-8447-6367-3

A5判・約390頁

本体価20,000円

本書は、戦前における平和の維持や軍縮、安全保障などについての條約および各種の関連文書を取録して昭和7年に発行された。本書によって、その時代の努力のなかに原理的なものが多く含まれ、小協商国と呼ばれた小国が健闘したことが知られている。平和の維持や国際間の信頼の助長のための先人の努力を確認し、正しく継承するべく、この條約集はそれだけの内容を含んでいると思われる。

(93・7 刊)

半澤玉城 著／解題 大畑篤四郎

復刻版

中国及び満州関係 條約及公文集

全2巻

ISBN 978-4-8447-6368-0

A5判・総約1,270頁

本体価55,000円

ネルチンクス條約以後、中国と諸外国との間に締結された諸條約を、きわめてハンディな形に編集して昭和9年に発行されたもの。中国が近代的な條約関係を結んだのは、アヘン戦争に敗北したのち、イギリスとの間に締結した1842年の江寧條約(いわゆる南京條約)であるが、それ以後列国は相次いで中国との間に同様の各種の條約を締結し、有利な地位を得た。これらは社会科学を学ぶ者には一応知識としては知られているが、條約に即してその内容を確認し検証するものは少ない。本書の復刊はそうした欠陥を補い、中国をめ

(93・7 刊)

ぐる国際関係の歴史的な研究を行うためにきわめて有用である。

藤本一美、浅野一弘 共著

日米首脳会談と政治過程
—1951年～83年—ISBN 978-4-8447-8372-5
A5判・718頁

本体価6,000円

政治・軍事面では連帯強化の一方、経済・通商・社会面では紛争・対立を深める今日の日米関係を踏まえ、日本の再出発以降の日米関係史を「首脳会談」的をしほり、吉田・トルーマン会議より中曽根・レーガン会議までの30回について、総合的に検証・分析する。関連する朝日、NYタイムズ両紙の社説・共同声明等も収録。
('94・5 初版)
('95・7 3版)

編集 ポール・F・フーパー／編集協力 山岡道男

*REMEMBERING THE
INSTITUTE
OF PACIFIC RELATIONS*
—The Memoirs of William L. Holland—
太平洋問題調査会 (IPR)
—ウィリアム L. ホランド回顧録—

ISBN 978-4-8447-6381-9
A5判・660頁

本体価20,000円

本書は、編者がIPRの中心人物で且つ生き証人でもあるホランド氏から聴取するオーラル・ヒストリー形式をとっている。アジア太平洋地域の国際関係、外交史、政治史、地域研究に関する内容は、他に類例を見ない極めて資料的価値の高いものである。IPRがアジア太平洋時代の先駆的存在意義を持つことから、本資料は今後の更なる発展が予想されるアジア太平洋時代の在り方や日本の国際的役割・国際貢献・国際交流・民間外交・国際人育成といったわが国の直面する今日の課題に限りない示唆を与えよう。(英文)
('95 刊)

(財)女性のためのアジア平和国民基金 編
編集(代表) 後藤乾一、高崎宗司、和田春樹

編集復刻版

政府調査 『従軍慰安婦』 関係資料集成
(1992～93) 全5巻ISBN 978-4-8447-3474-1
A5判・総約3,500頁

本体価100,000円

日本政府は、「慰安婦問題」の真実を明らかにして歴史の教訓とするためには、資料の発掘、調査、研究が必要であるとし、平成3年より8年にかけて3次にわたり、内外の諸機関の協力を得て総合調査を行った。そして、その資料を永久保存すると共に、この問題の研究に関心を持つ内外の人々に全公開することを決定した。

(財)女性のためのアジア平和国民基金は、この政府調査をオリジナルのまま編集し、このたび小舎が刊行した。この悉皆調査を目指した本企画の資料的価値は絶大であり、大学、研究機関、団体、またこの問題に関心をもつ個人の方々にも是非必読の文献としておすすめ申し上げたい。

('97・3 初版)
('99・12 2版)

収録内容

第1巻	警察庁関係公表資料 外務省関係公表資料	第4巻	国立公文書館所蔵資料 大英帝国戦争博物館所蔵資料 厚生省関係公表資料
第2・3巻	防衛庁関係公表資料	第5巻	米国国立公文書館所蔵資料 国立国会図書館所蔵資料 各巻収録資料の概要紹介

山岡道男 著

『太平洋問題調査会』研究

ISBN 978-4-8447-8435-7

A5判・350頁

本体価7,000円

1925年7月に開会した太平洋問題調査会（IPR）は、太平洋沿岸諸国〔日本・米国・中国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなど〕に、太平洋問題を恒常的に調査研究する国際組織として設置された。そして、幾多の国際環境の変遷と関わりながら世界の三大国際会議といわれ、1958年の第13回会議を最後に、33年間にわたった活動を閉じた。その歴史的研究に関わった、著者の10年の研究成果をまとめる。（97・7刊）

波多野 勝 編

編集復刻版

編集復刻 日中貿易促進議員連盟関係資料集 「日中貿易議連週報」他 全10巻

ISBN 978-4-8447-3485-7

A4判

本体価300,000円

1972年、日中両国は国交を回復した。1949年中華人民共和国の成立以来、すでに23年余が経過していた。いうまでもなくこの間両国には、正式な外交ルートは存在しない。戦後冷戦の世界的拡大は、日中関係を極めて複雑な状況にしていたのである。そして「政経分離」という非公式な接触が続く。本資料は、まさしくこの間の、非公式交渉の時代を明らかにした資料である。同議連は1949年春に中日貿易促進議員連盟として成立、朝鮮戦争のため1度休眠し、1952年末に日中貿易促進議員連盟として復活、1970年日中国交回復促進議員連盟、1974年以後、日中友議員連盟と名称を変更して今日に至っている。

資料内容は1950年代から1960年代の日中関係の草創期から激動期迄のものであり、第1次～第4次民間協定の日中交渉、同議連内の動向、さらに関係各団体（日中貿易促進会、日中国際貿易促進協会、日中輸出入組合）、また日本赤十字社、日中友好協会など様々な形で中国問題に深く関係した団体の資料（定期刊行物、議事録、メモ、書類）を含む膨大なものである。散在していたこれ等を収集整理された波多野勝先生のご努力により、初めてその全体像を体系的に公開する事ができた。戦後日中関係のいわゆる積み重ね貿易の実態を解明する基本資料として、さらには「日中関係史研究」の必備文献として、本資料を大学研究機関等で御利用されることを希望するものである。（99・6刊）

編集・解題

1～4編 大畑篤四郎

5編 ハラルド・クラインシュミット、吉田 脩 共編

編集復刻版

近代国際関係条約資料集 全5編・総22巻

A5判

揃本体価460,000円

現代はボーダーレスの時代といわれる。国境を越えてモノ、ヒト、情報が激しく移動し、事実上、国境なき世界が展開しているように見える。しかし、世界を旅行するとき、パスポートやビザが不可欠であるように、国境や国家はなおも厳然として私たちの前に立ちはだかり、国家が国際社会を形成する最も権威ある単位であることには変わりはない。国家を最高の単位として国際社会を成立させたのは、近世ヨーロッパの30年戦争を終結させたウエストファリア条約（1648年）である。この条約を基盤として築かれた「ウエストファリア体制」と呼ばれる近代国際関係システムは、17世

紀から18世紀にかけて変容し、ナポレオン戦争によって大きな打撃を受けるものの、第一次大戦の勃発までヨーロッパの全域を巻き込むような大戦争を防いできたといえる。

ウエストファリア体制下の250年もの間、ヨーロッパにおいて比較的安定した国際関係が保たれたのは、勢力均衡の原理に基づく巧みな外交技術の結果であるといわれる。ヨーロッパ文化に根ざす巧みな外交技術の結晶が条約や協定類であり、この条約資料集は、それらを包括的に集成したものである。条約や協定ばかりでなく、条約に準ずる諸文書、決議、宣言などの関連文書を可能な限り収録している。

第一次世界大戦以降の国際条約類はさらに世界に広がりを見せ、また、19世紀後半から、ヨーロッパとは異なる国際システムを築いていたアジアにおいても近代的条約網が広がって行くが、それらは比較的容易に原文にアクセスすることが可能である。しかし、第一次大戦以前については決して容易ではない。こうした点も考慮し、本資料集は第一次大戦までをもって終結することとした。

本シリーズに収録した条約類は、それらの内容を厳密に理解し、研究者や実務家の用に供するため、原文を忠実に収録している。さらに、条約類の相互関係の理解やそれらが形づく国際関係の特徴を理解する一助とするため、編者による解題を附した。解題のみを通読するだけで、ヨーロッパの国際関係とその外部世界への広がりを知ることができるであろう。

近代国際関係条約資料集編成内容

第1編 近代国際社会形成期の外交

vol. 1～5・全5巻 ISBN 978-4-8447-4407-8
本体価100,000円

ウエストファリア条約(1648年)以後17、18世紀ヨーロッパの諸条約。王位継承戦争の講和条約など。(90・2刊)

第2編 フランス革命よりウィーン体制成立期の外交

vol. 6～9・全4巻 ISBN 978-4-8447-4408-5
本体価80,000円

人権宣言とフランス革命期の文書、フォンテーヌブロー条約、パリ講和条約(第一回・第二回)、ウィーン会議最終議定書、神聖同盟にいたる諸条約など。(91・6刊)

第3編 アメリカの独立と建国期の外交

vol. 10～12・全3巻 ISBN 978-4-8447-4409-2
本体価60,000円

独立宣言、連合規約、パリ講和条約、ピンクニー条約、モルフェンテーン条約、フランス革命戦争に関する中立宣言、ジェイ条約、ガン講和条約、アダムズ＝オニス条約、ミズーリ協定、モンロー宣言、望廈条約、オレゴン条約、クレイトン＝バルワー条約など。(92・11刊)

第4編 19世紀ヨーロッパ外交の発展とビスマルク期の外交

vol. 13～18・全6巻 ISBN 978-4-8447-4410-8
本体価120,000円

アールヘン議定書、ウンキヤール・スケレッシ条約、ヤッシー条約、クリミヤ戦争パリ講和条約、普墺戦争講和条約、普仏戦争平和条約、サン・ステファノ講和条約、ベルリン条約(ロシア・トルコ間)、オーストリー＝ハンガリー、ドイツ、ロシア間同盟条約(三帝同盟)、オーストリー＝ハンガリー、ドイツ、イタリー間同盟条約(三国同盟)、独露再保険条約、ロシア・トルコ間平和条約など。(97・5刊)

第5編 帝国主義期ヨーロッパ外交の発展

vol. 19～22・全4巻 ISBN 978-4-8447-4411-5
本体価100,000円

北米に関する諸条約、アフリカからの奴隷の取引禁止に関する諸条約、アフリカに関する諸条約、植民地拡大に関する諸条約、アラビア諸島・南太平洋に関する諸条約、露仏同盟、英仏協商、英露協商などの重要条約のほか、郵便及び通信に関する諸条約、メートル条約、工業所有権の保護に関する条約、ベルヌ著作権条約なども取める。(06・5刊)

藤本一美 編

現代日本宰相論
—1996年～2011年の日本政治—

ISBN 978-4-8447-0306-8
A5判・350頁 本体価3,000円

橋本龍太郎内閣(1996年1月発足)～野田佳彦内閣(2011年11月発足)迄の10政権一内閣に的を絞り、わが国の首相に期待される「指導力」と「管理能力」についての分析諸研究を参考に、その権力と指導力の類型を踏まえつつ、歴代首相の思想と行動を中心に当該内閣の特色を描く。「保守的」政権から「社会民主的」政権へと転換した日本の内閣政治はどのように展開され、今後はいかなる方向へ進むのかを考える基本的材料を提供する。(12・3刊)

細谷千博著作選集全2巻

歴史のなかの日本外交
—細谷千博著作選集①

ISBN 978-4-8447-0302-0

A5判・364頁

本体価6,000円

国際政治のなかの日本外交
—細谷千博著作選集②

ISBN 978-4-8447-0303-7

A5判・344頁

本体価6,000円

草創期「日本の国際政治学」の発展に偉大な足跡を残し、戦後日本の学問の国際化に尽くした外交史大家の珠玉の論考や発言を厳選し、後世に残すべき貴重な遺産として世に贈る。第1巻には、歴史家、外交史の碩学としての著者による論文や講演録を、第2巻には国際政治学者、批評家としての著者の文章を収録し、各巻とも巻末に著作目録と略歴を附した。

ひとりの卓越した歴史家、また国際政治学者としての60年におよぶ幾多の業績を振り返ることによって、戦後日本に築かれた「もう一つの知の体系」を味読することが出来る。(12・9刊)

収録内容

第1巻 歴史のなかの日本外交	第1部 戦間期の日本外交	第2巻 国際政治のなかの日本外交	第1部 国際政治・外交論
	1 序説 戦間期の日本外交 (『两大戦間期の日本外交』1988年)		1 国際政治の舞台の背景 (『新版・国際政治の世界』1993年)
	2 ワシントン体制の特質と変容 (『ワシントン体制と日米関係』1978年)		2 総説 対外政策決定過程における日米の特質 (『対外政策決定過程の日米比較』1977年)
	3 北サハリンの石油資源をめぐる日・米・英の経済紛争 (『太平洋アジア圏の国際経済紛争史1922-1945』1983年)		3 ヨーロッパ統合の歴史 (『テキストブック ヨーロッパ統合』2000年)
	4 綿麦借款と米・中・日—1933-34年 (『外交史料館報』2006年20号)		4 歴史における冷戦後—「冷戦後」を見る三つの視点 (『国際政治経済システム1』1997年)
	5 日米関係の破局、1939-1941 抑止政策とその誤算 (『一橋論叢』1965年)		5 戦後国際政治システムの変容と日米関係の歴史的展開—NSC68からニクソン・ドクトリンまで (『アメリカ外交 (国際研究叢書33)』1986年)
	6 外務省と駐米大使館—1940-41年 (『日米関係史』第1巻、1971年)		6 アメリカの対日講和政策の展開—1949-50年 (『冷戦期アメリカ外交の再検討 (国際政治70)』1982年)
	7 太平洋戦争とは旧英戦争ではなかったのか		7 吉田書簡と米英中の構図 (『中央公論』1982年)
	第2部 歴史の教訓		8 『今月の言葉』 (『中央公論』1980年頭書の連載)
	1 シベリア出兵をめぐる日米関係 (『国際政治』1961年)		第2部 政治家・外交官の苦悩と模索
	2 シベリア出兵研究の今日的意味 (『外交史料館報』2005年19号)		1 牧野伸顕とヴェルサイユ会議 (『中央公論』1965年)
	3 歴史の教訓 (『外交史料館報』1988年創刊号)		2 外交官・吉田茂の夢と挫折 (『中央公論』1977年)
	4 アジア・太平洋戦争の歴史についての見方 (『日本学士院紀要』1997年)		3 松岡洋右と飛翔する外交 (原題「松岡洋右」『人物日本の歴史』1966年)
	5 戦争を記憶すること、歴史を記録すること (『世界』1995年)		4 ジョージ・サンソムと敗戦日本—(『知日家』) 外交官の軌跡 (『中央公論』1975年)
	5 歴史家としてのジョージ・ケナン (『アメリカ外交の基本問題』1965年)		

李 炫雄 著

原子力をめぐる 「日米協力」の形成と定着 1953-1958

ISBN 978-4-8447-5565-4
A5判・280頁

本体価4,000円

アメリカ合衆国で1946年8月に制定された原子力法は、原子力に関する情報の海外提供を禁止していた。しかし、1953年に発足したアイゼンハワー政権により、アメリカは世界の国々と原子力協定を結んでいく。軍事利用されかねない原子力にもかかわらず、同法を改定してまで他国と協力関係を結んだアイゼンハワー政権の原子力政策とは何だったのか。また、世界唯一の被爆国である日本とアメリカとの関係はどうあったのか。各国との協定内容を比較検討しながら、当時の日本政府の対外原子力外交を考察する。(13・8刊)

柳 英武 著

東アジアにおける 近代条約関係の成立

ISBN 978-4-8447-0227-6
A5判・280頁

本体価6,000円

日清戦争前の清韓関係は宗属関係にあった。これが戦争をきっかけに変容を始め、近代的国家関係に再編されていく。

日本の勝利という見方の裏には、日中韓三国がそれぞれの国の存亡をかけ活発な外交を展開した歴史的事実があった。本書は、日清戦争後の東アジアにおいて近代的条約が締結され新たな国際社会が誕生していく過程を、清韓二国間の視点から解明する、気鋭の研究書である。(15・4刊)